

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

<b>事業名</b>	大学病院就業環境改善推進事業		<b>担当部局庁</b>	高等教育局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	事業開始年度:平成21年度		<b>担当課室</b>	医学教育課大学病院支援室		大学病院支援室長 玉上 晃		
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	IV-1 大学などにおける教育研究の質の向上				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	—		<b>関係する計画、通知等</b>	医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について (平成22年4月30日 厚生労働省医政局長通知)				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	地域医療が崩壊する中で大学病院に患者が集中し、医師や看護師が過重労働を強いられていることから、医師や看護師が行っている事務的な作業を補助する職員(医師事務作業補助者)を配置することにより、医師や看護師の業務負担を軽減させて本来の医療業務に専念させ、患者への医療サービスを向上させる。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	大学病院における検査の予約管理、書類や伝票の整理、患者の転院先病院・診療所との連絡調整、患者の案内、院内の物品の搬送、ベッドメイキングなど、医師や看護師以外の者であっても行うことが可能な作業を担当する医師事務作業補助者を大学病院に配置し、医師や看護師の業務負担の軽減を図る。 (補助金補助率:定額補助)							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	—	0	0	0		
		繰越し等	—	0	0	0		
		計	—	3,024	2,175	2,066	2,066	
	執行額	—	2,761	2,175				
	執行率(%)	—	91.3%	100.0%				
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>	成果目標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値(23年度)
	医師事務作業補助者の配置人数		成果実績	人	—	2,085	1,392	1,129
			達成度※1	%	—	186%(1,120)	160%(870)	
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	プログラム実施数		活動実績 (当初見込み)	件	—	79	79	( 79 ) ( 79 )
<b>単位当たりコスト</b>	27.5(百万円/件)		算出根拠	単位当たりコスト =22年度執行額(2,175百万円)/プログラム実施数(79件)				
平成23・24年度予算内訳	<b>費目</b>	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	大学改革推進等補助金	2,066百万円	2,066百万円					
	計	2,066百万円	2,066百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・本事業により、各大学病院に医師事務作業補助者を配置（平成22年度は2,085人と目標を大きく上回る）することで、医師や看護師の業務負担を軽減し、本来の医療業務に専念することが可能となっている。</p> <p>・経費の執行に関しては、事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・用途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。</p> <p>・平成23年度においても、引き続き、各大学病院においてより効果的に医師事務作業補助者を配置し、医師及び看護師の業務負担の軽減により、患者への安全な医療サービスの向上を図る。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、大学病院において医師事務作業補助者（医療クラーク）を配置し、医師や看護師の業務負担を軽減することを目的とした国公私立大学に対する補助事業であり、予算措置手法・実施体制の観点から検証を行う。</p> <p>2. 所見：本事業については、昨年度のレビューを踏まえ、予算の縮減を図ったところであるが、引き続き事業内容を精査し、事業の重点化・効率化に努めるべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）			
<p>予算監視・効率化チームの所見を踏まえて、事業内容を精査し、賃金の積算にあたって勤務日数の見直しを行い、概算要求に▲414百万円反映した。</p>			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
<p>※1（ ）内は各年度における目標値であり、達成度(%)は各年度の目標値に対する率を記載。</p>			

文部科学省  
2,175百万円

対象大学から申請のあった事業内容を審査の上、支援対象とする取組を選定し、補助金を交付する。



【補助】

A. 大学(全79件)  
総額 2,175百万円

大学病院において医師事務作業補助者を配置し、医師や看護師の業務負担を軽減する。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の  
 金額が支出され  
 ている者につい  
 て記載する。費  
 目と使途の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

A. 杏林大学			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人材派遣料	病棟看護助手業務、病棟クラーク業務	46			
病棟業務補助	ベッドメイキング業務、SPD(物品等搬送)業務、洗浄・消毒・滅菌業務等	32			
計		78	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

※補助事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	杏林大学	杏林大学病院業務改善推進事業	78	—	—
2	大阪大学	大阪大学病院業務改善推進事業	78	—	—
3	東京大学	東京大学病院業務改善推進事業	58	—	—
4	東北大学	東北大学病院業務改善推進事業	55	—	—
5	岩手医科大学	岩手医科大学病院業務改善推進事業	48	—	—
6	帝京大学	帝京大学病院業務改善推進事業	48	—	—
7	日本医科大学	日本医科大学病院業務改善推進事業	48	—	—
8	名古屋大学	名古屋大学病院業務改善推進事業	43	—	—
9	大阪市立大学	大阪市立大学病院業務改善推進事業	40	—	—
10	東京女子医科大学	東京女子医科大学病院業務改善推進事業	40	—	—